

国際交流事業年報

2025



浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

ご挨拶

学長特別補佐（国際担当）
国際化推進センター長 / 医化学講座
教授 才津 浩智



皆さま、こんにちは。浜松医科大学 国際化推進センター長と学長特別補佐（国際担当）を拝命しております、医化学講座の才津浩智です。平素より本学の国際交流事業に対しまして、皆さまから賜る温かいご理解とご支援に、心より深く御礼申し上げます。

本学では、医療のグローバル化が進展する現代社会において、国際的な視野と実践的な語学力、異文化理解力を兼ね備えた医療人の育成を重要な使命と捉え、国際教育および学術交流の拡充に取り組んでおります。その一環として、海外臨床実習は年々関心が高まっており、昨年度に引き続き24名の学生が、2026年3月～6月に海外で研修を行います。本学の学術交流協定校を中心に展開されるこれらの実習では、医療制度や文化の異なる国々での臨床経験を通じて、学生がより柔軟で国際的な思考を身につけることができます。また、基礎研究分野における短期海外留学も着実に定着してきており、本年度は4名の学生が欧州の4つの研究機関にて、現地の研究者とともに実験・議論に取り組む貴重な機会を得ました。短期間ながらも、異なる研究環境での活動は、自身の専門性を深めるだけでなく、国際的なキャリア形成への意識を高める契機となっております。こうした留学経験は、帰国後の研究活動にも好影響を与えており、今後も支援体制の充実を図ってまいります。

一方、世界的な政治・社会情勢の変化、とりわけトランプ政権以降の米国における移民・留学政策の影響により、日本への進学・研究を志望する海外の大学院生が増加しています。本学においてもその傾向が顕著となっており、2025年7月時点で博士課程等に在籍する大学院留学生は32名に達しております。さらに、2025年度前期の半期のみで、海外の医学生や研究生など短期受け入れも23名と、過去最大規模となりました。これに伴い、教育・研究体制の充実に加えて、学生寮の整備、生活支援体制の強化など、多角的な支援が求められています。

国際連携の拡充にも継続して注力しており、現在、米国のロチェスター大学をはじめとする2大学との間で、新たな学術交流協定の締結に向けた協議を進めております。これらの協定は、学生の相互派遣に加え、教員間の研究交流や共同研究の機会創出にもつながり、本学の国際的プレゼンスをさらに高めるものと期待しております。予定されている静岡大学との法人統合も踏まえて、より強力に学術交流を進めていきます。本学が、世界の医学教育・研究を牽引する拠点として、より一層の発展を遂げられるよう、全力で取り組んでまいります。

今後とも、本学の国際交流の推進に、引き続きご支援・ご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

スイス・バーゼルにおける研究留学の記録

— 異分野での挑戦と家族との海外生活 —

理事（教育・評価担当）・副学長
梅村 和夫

1990年から1991年までの1年半、私はスイス・バーゼルにあるサンド製薬の研究所に留学する機会を得ました。当時、薬理学講座の大学院生として研究を行っていた私は、同講座からサンド製薬の研究所へ継続的にポストクを派遣していたプログラムの候補者に選ばれ、留学が決まりました。

私は耳鼻咽喉科学を専門としており、特にめまいや内耳血流障害の研究に取り組んでいましたが、スイスでの研究テーマは心不全に関するもので、自分の専門外の分野でした。不安もありましたが、ちょうど大学院の卒業論文をまとめ終えた時期でもあり、新しい経験の機会として前向きに受け止め、留学に臨むことにしました。渡航前には、心不全に関する基礎的な知識や技術を身につけ、現地での研究に備えました。

妻と、当時2歳と9か月だった2人の子どもを連れての初めての海外生活には、大きな不安も伴いました。しかし、研究所には日本人スタッフが在籍しており、生活面で手厚いサポートを受けたことで、スムーズに現地の環境に適応することができました。研究所内では英語でのコミュニケーションが基本でしたが、バーゼルはドイツ語圏であるため、日常生活ではドイツ語が必要でした。妻もドイツ語の会話を勉強しながら、片言ながらも買い物や日常のやり取りをこなしていました。

研究内容は、動物用の最先端MRI機器を用いたラットの心肥大モデルに関するもので、非常に高度で刺激的なものでした。研究成果としては、4編の論文を投稿することができ、学術的にも充実した期間となりました。また、スイスはアルプスや湖に囲まれた自然豊かな国で、週末には電車で2時間ほどの場所に家族でハイキングに出かけるなど、生活面でも多くの楽しみがありました。

留学を通じて、日本とスイスにおける研究スタイルの違いも肌で感じました。特に印象的だったのは、時間の使い方に対する考え方の違いです。夕方になると、研究所に残っているのは日本人だけという日もありました。限られた時間内で効率的に成果を上げるという姿勢を学び、これは現在の研究活動にも大きく活かされています。

この留学は、研究者としてだけでなく、一人の人間としても大きく成長する貴重な経験となりました。家族と共に海外で生活し、困難や喜びを分かち合えたことは、今でもかけがえのない財産です。バーゼル留学中に会った日本人の方々とは、現在でも「バーゼル会」として年に一度集まり、当時の思い出を語り合っています。



写真説明（妻が撮影、1991年夏）
週末に家族で、アルプスの山々を眺めながらハイキングを楽しんでいる様子です。

私費外国人留学生31名に奨学金給付

- 月 額 100,000円
※外部奨学金受給者は月額上限150,000円から当該受給額を減額した額を支給しました。
- 給付総額 29,400千円
(2024年4月～2025年3月)

国 名	人 数
中国	17名
バングラデシュ	6名
ベトナム	3名
パキスタン	3名
インド	1名
ルワンダ	1名
計	31名

日本語課外補講の開催

日本での生活に必要な不可欠な日本語課外補講を開催しました。留学生の家族や外国人教職員も参加可能とし、日本語の学習だけでなく、日本での生活に必要な知識を学ぶとともに他の外国人留学生等との交流する機会を提供しました。

- 実施内容 初級・初中級（2コース×2）
- 実施対応 外部講師 2名
- 実施期間 2024年4月～2025年3月
月・火曜日
- 実施回数 各コース 全 40 回
- 参加者数 28名
- 経 費 無料（大学負担）



留学生研究活動旅費支援

留学生の研究活動支援を目的として、学会出席や他の研究機関等に研究に関する資料収集へ行くための国内旅費（個人見学旅費）を支給しました。

- 対象期間 2024年4月～2025年3月
- 支援総額 224,344円
- 支援内訳

留学生所属講座	採用件数	支援額
細胞分子解剖学講座	4件	100,360円
腫瘍病理学講座	1件	20,464円
整形外科科学講座	2件	51,808円
臨床看護学講座	1件	51,712円

■ 国際交流会館の整備

外国人留学生の学習・生活環境改善のため、国際交流会館・単身棟のインターネット改修工事を実施しました。Wi-Fiルーターを各階1台から3台へ増設する工事を実施し、すべての居室において安定したインターネット接続が可能となりました。

- 総工事費 1,999千円



2024年度実績

国際交流事業

■ English Caféの開催

学生課外活動団体のHOPEと共催し、学生が留学生との交流を深め、英語でコミュニケーションをとる力を伸ばすことを目的に、英語での交流会「English Café」を実施しました。

- 実施対応 国際交流サークルHOPE、国際化推進センター 才津センター長、山下特任准教授、Johnson准教授、Boyce特任講師、Thornton特任助教 他
- 実施期間 2024年4月～2025年1月
- 実施回数 9回



■ 留学生インタビューの実施

大学院留学生3名へ英語でインタビューを実施しました。本学Webサイトの「浜松医科大学 紹介動画」へ掲載しました。

留学生インタビュー
International Student Interview



Journal Club への参加

光創起イノベーション研究拠点が主催する、外国人研究者の指導を受けながら、静岡大学・浜松医科大学の学生が英語の学術論文を共同で読解し、発表する会に参加しました（対面とオンラインのハイブリッド形式で実施）。

【2024年7月29日開催】

- 題 材 論 文 “In vivo imaging with a fast large-area multiphoton exoscope (FLAME) captures the melanin distribution heterogeneity in human skin”
- 本学発表者 医学科5年 2名

【2025年2月14日開催】

- 題 材 論 文 “Sperm-cell DNA fragmentation prediction using label-free quantitative phase imaging and deep learning”
- 本学発表者 博士後期課程2年 1名、博士後期課程1年 1名

留学生研究報告会・ウェルカムイベント開催 【2024年10月30日】

博士課程3年次留学生が、3年間の研究成果を発表しました。大学院留学生のほか学内教職員、学部学生などが参加し、研究マインドを高めるイベントになりました。研究報告会に引き続き、4月・10月入学の新入留学生6名の歓迎を目的としたウェルカムイベントが行われました。

- 参加人数 43名
- 研究発表 大学院3年生 7名



■ 外国人留学生実地研修旅行 【2024年11月15日】

外国人留学生が日本の文化、歴史、風土、産業等の見聞を広め、日本をより深く理解してもらうとともに、外国人留学生・教職員相互の理解や親睦を深めることを目的として実地研修旅行を開催しました。愛知県三河地域にて豊川稲荷や岡崎城などを巡り、歴史館や伝統的な八丁味噌作りの工場見学を行いました。

● 参加者 外国人留学生・その家族33名、引率の教職員6名



■ 国際交流のつどい 【2025年3月14日】

日頃よりご支援をいただいている国際交流事業関係者や地域関係者の方々をお招きして「国際交流のつどい」を開催しました。このイベントでは、支援者と外国人留学生・研究者との親睦を深めることを目的とし、約70名が和やかな雰囲気の中で交流を楽しみました。



学生海外留学派遣支援

本学の海外留学プログラム等に参加した学生に対し、海外留学支援金として1名あたり20,000円～80,000円を支給しました。

- 対象者 45名
- 支給総額 2,720千円

留学内容	人数
海外臨床実習	22名
基礎配属	5名
ハワイ大学語学留学	10名
慶北大学校看護大学（海外看護演習）	4名
ネブラスカ大学（海外看護演習）	4名
計	45名

2024年度海外留学報告会 【2024年7月24日】

2023年度に海外留学に参加した代表学生による報告会を開催しました。海外留学での成果や学び、経験の他、今後留学を希望している学生へのアドバイスなど様々な視点からの報告がありました。

- 報告者 17名
 - ・ 国際サービスラーニング
 - ・ 英国留学
 - ・ IFMSA留学
 - ・ 学術交流協定校等での海外臨床実習
 - ・ ハワイ大学語学研修
 - ・ ハワイ大学サマーワークショップ
- 参加者 発表者を含む学部学生58名、来賓役員2名、教職員14名



医学英語のグループ学習を実施

米国医師免許試験（USMLE）対策の学習モジュールを活用した医学科学生が自由に参加できる医学英語のグループ学習を毎週1回オンラインで開催しました。

- 実施対応 【国際化推進センター】
才津センター長、山下特任准教授、Boyce特任講師
【光神経解剖学分野】 山岸教授
- 実施期間 2024年4月～2024年7月
- 実施回数 14回
- 参加学生数 14名



■ 英語での症例発表の実技演習

2025年度の海外臨床実習に参加する学生に対して、医療現場で必要な英語表現やコミュニケーションスキルを身につけることを目的とした医療面接の指導を実施しました。

- 実施期間 2024年11月～2024年12月
- 対象者 24名
- 指導者 国際化推進センター 山下特任准教授、Thornton 特任助教
- 内容 英語による医療面接の指導



2024年度実績

学術交流事業

■ 「第21回慶北－浜松合同医学シンポジウム」の開催 【2024年9月4日～6日】

慶北大学校医科大学と看護大学から32名を迎え、6年ぶりに浜松にて「第21回慶北－浜松合同医学シンポジウム」を開催しました。また、同時に学生交流会も開催しました。



■ ブラウンシュヴァイク工科大学との学術交流協定の締結 【2024年10月3日】

ドイツのブラウンシュヴァイク工科大学と本学との間で、学術基本合意書と学生交流協定を締結しました。協定に基づき、研究留学で学生1名を本学から派遣しました（医学科3年必修科目「基礎配属」で単位認定）。



SRM医科大学 病院・研究センターとの学術交流協定の締結

【2024年10月22日】

インドのSRM医科大学 病院・研究センターと本学との間で、学術基本合意書を締結しました。本学では初のインド協定校となります。



タマサート大学チュラポーン国際医学部訪問

【2025年2月4日～5日】

今野弘之学長（当時）他5名がタイ王国パトゥムターニ県にあるタマサート大学チュラポーン国際医学部のランシットキャンパスを訪問し、アジアを代表する国際医学教育・研究・医療施設等の現場を視察しました。





学術交流協定校紹介



浜松医科大学は、24大学（12の国と地域）と大学間交流協定を結んでいます（2025年8月現在）。今回は2024年10月に協定を締結した、ドイツのブラウンシュヴァイク工科大学を紹介します。

1745年設立のブラウンシュヴァイク工科大学は、ドイツのトップ工科系大学連盟「TU9」に加盟する、優れた研究力を持つ先進的な大学です。ヨーロッパでも有数の研究拠点の一つである「科学の街」ブラウンシュヴァイクにおいて、最先端の施設とアットホームな雰囲気が魅力のキャンパスを備え、研究と教育の両面で長年にわたり卓越した実績を誇っています。そして、大学の主要な研究分野である「モビリティ技術」「計量学」「未来都市」「ヘルスケア工学」に関連する国内外の研究プロジェクトに多数参加しており、その産業界との強い結びつきによって、学生にインターンシップや応用研究の貴重な機会を提供しています。また、積極的に国際交流を推進し120か国以上から学生を受け入れており、留学生が安心して学べるよう、充実したサポート体制やメンタリングプログラムも整えられています。

医学科3年必修科目「基礎配属」での海外留学による単位認定制度を利用して、毎年、学生1名が生命科学学部の濤川一彦先生の研究室に留学しており、また、本学もこれまでに3名の特別研究学生を受け入れています。



● 学部構成

- カール・フリードリヒ・ガウス学部（数学、情報学、経済学、社会科学）
- 生命科学学部（生物学、生物工学、化学・食品化学、薬学、心理学）
- 建築・土木工学・環境科学学部
- 機械工学部
- 電気工学・情報技術・物理学学部
- 人文教育学部



写真提供：Kristina Rottig, Frank Bierstedt, Simone Fürst/TU Braunschweig



国際交流概況



外国人留学生 (2025年7月現在)

国 名	大学院医学系研究科						医学部		大学院 継続 研究生	総計
	医学専攻		光医工学共同専攻	看護学専攻		合計	医学科	看護学科		
	博士課程		博士後期課程	博士前期 課程	博士後期 課程					
	国費	私費								
中国		14	1			15				15
バングラデシュ	3	5	1			9				9
ベトナム	2	2				4				4
パキスタン	1		2			3				3
インド		1				1				1
大韓民国						0	1			1
合計	6	22	4	0	0	32	1	0	0	33

2025年度 短期・中期留学生受入

内 容	在籍大学	国・地域名	備考	人数
臨床実習	上海交通大学医学院	中国	協定校	2
	台北医学大学医学部	台湾	協定校	2
	慶北大学校看護大学	大韓民国	協定校	4
	ピアウイストク医科大学	ポーランド	協定校	2
	デュッセルドルフ大学	ドイツ	協定校	1
	南洋理工大リーコンチアン医学部	シンガポール	IFMSA	1
	マルタ大学	マルタ	IFMSA	2
	リュブリャナ大学	スロベニア	IFMSA	1
研究留学	タマサート大学チュラボン国際医学部	タイ	協定校	5
	ブラウンシュヴァイク工科大学	ドイツ	協定校	1
	ヘルシンキ大学	フィンランド	IFMSA	1
	義守大学	台湾	IFMSA	1
	[予定] 桂林医科大学	中国	協定校	2
	[予定] ブラウンシュヴァイク工科大学	ドイツ	協定校	2
合計：				27

※2025年8月末時点の予定人数



2025年度 海外留学派遣

授業科目	内 容	留学先	国・地域名	備考	人数
臨床実習Ⅱ	臨床実習	中国医科大学	中国	協定校	1
		上海交通大学医学院	中国	協定校	2
		广西医科大学	中国	協定校	1
		桂林医科大学	中国	協定校	1
		台北医学大学医学部	台湾	協定校	3
		慶北大学校医科大学	大韓民国	協定校	3
		ピアウイストク医科大学	ポーランド	協定校	2
		ワルシャワ医科大学	ポーランド	協定校	3
		デュッセルドルフ大学	ドイツ	協定校	3
		タマサート大学チュラボン国際医学部	タイ	協定校	3
		トゥルク大学	フィンランド	IFMSA	1
		オーデンセ大学病院	デンマーク	IFMSA	1
		カレル大学	チェコ	IFMSA	1
		国際サービス・ラーニング	ケニア	その他	1
	研究留学	ブラウンシュヴァイク工科大学	ドイツ	協定校	1
		ヴェローナ大学	イタリア	IFMSA	1
		ポルト大学	ポルトガル	IFMSA	1
		ハジェッテベ大学	トルコ	その他	1
海外研修Ⅰ・Ⅱ	語学留学	Kaplan International Languages	英国	その他	1
	語学留学	Impact プリスベンキャンパス	オーストラリア	その他	1
	語学留学	ハワイ大学	米国	その他	4
	ボランティア活動	マレーシアの孤児院	マレーシア	その他	1
	ボランティア活動	ケニアの医療キャンプ	ケニア	その他	1
	教育プログラム	SPACE CENTER HOUSTON	米国	その他	1
	国際サービス・ラーニングⅡ	ケニアの医療キャンプ	ケニア	その他	7
国際看護演習		ネブラスカ大学医療センター	米国	その他	2
合計：					48

※2025年度に単位認定する学生を計上している。留学期間が2024年度の学生も含む。

IFMSA について

IFMSA (International Federation of Medical Students' Associations) (国際医学生連盟) は、WHO (世界保健機関) やWMA (世界医師会) によって正式に認められた医学生による非営利・非政治の国際学生NGOです。「すべての医学生がグローバルヘルスのために団結し、将来の医療において地域、そして世界で活躍できるリーダーを育成する」ことをVisionとして活動しています。このIFMSAの臨床交換留学プログラムにより、日本の医学生が海外の病院で臨床研修を行うとともに、現地の医学生との交流を通じて相互理解を深めています。また、留学生を受け入れて世界とつながる機会を持つことができます。



国際交流協定・姉妹校



2025年5月1日現在

大学名等（国・地域名）	締結開始日	協定等の内容
中国医科大学（中国）	1988. 4.29	姉妹校協定
慶北大学校医科大学（大韓民国）	1992. 9. 7	学術交流協定
慶北大学校看護大学（大韓民国）	2005. 9.23	学術交流協定
上海交通大学医学院（中国）	2000. 3.24	学術交流協定
フライブルク大学医学部（ドイツ）	2003. 6.30	学術交流協定
河南中医薬大学（中国）	2003.12. 8	学術交流協定
ビャウイストク医科大学（ポーランド）	2004. 4.19	学術交流協定
ダッカ大学（バングラデシュ）	2004.11.12	学術交流協定
シャジャラル科学技術大学（バングラデシュ）	2004.11.12	学術交流協定
ボンゴボンデュ セイク ムジブ医科大学（バングラデシュ）	2004.11.12	学術交流協定
广西医科大学（中国）	2004.11.21	学術交流協定
ワルシャワ医科大学（ポーランド）	2010. 4. 1	学術交流協定
ルブリン医科大学（ポーランド）	2010. 4. 5	学術交流協定
デュッセルドルフ大学（ドイツ）	2012. 8. 9	学術交流協定
ハワイ大学医学部（米国）	2012. 9. 6	学術交流協定
ヒッタイト大学（トルコ）	2013.12.17	学術交流協定
フィレンツェ大学（イタリア）	2017.11.24	学術交流協定
ルワンダ大学医学・保健学部（ルワンダ）	2018. 3. 6	学術交流協定
タマサート大学チュラポーン国際医学部（タイ）	2018. 4.24	学術交流協定
ネブラスカ大学医療センター（米国）	2020. 6.22	学術交流協定
桂林医科大学（中国）	2023.12. 5	学術交流協定
台北医学大学医学部（台湾）	2024. 2.22	学術交流協定
ブラウンシュヴァイク工科大学（ドイツ）	2024.10. 3	学術交流協定
SRM医科大学 病院・研究センター（インド）	2024.10.22	学術交流協定

留学生の言葉

大学院医学系研究科 光医工学共同専攻博士後期課程3年
細胞分子解剖学
(バングラデシュ出身) **AFROZ Mst Sayela**



大学駐車場で冬の紅葉を楽しむ

私はMst Sayela Afrozと申します。浜松医科大学光医工学共同専攻（博士後期課程）の最終学年の大学院生で、瀬藤光利教授のご指導のもと研究を行っています。私はバングラデシュ西部の出身で、その地域は甘いマンゴーとシルクの服でとても有名です。バングラデシュのUniversity of Rajshahiの生化学・分子生物学科で学士号と修士号を取得しました。学部卒業後は、Bangladesh University of Health Sciencesという医療系大学で4年間勤務し、そのなかで自分は優れた研究者になれるのではないかと感じました。日本は研究の面で世界的に高く評価されており、女性にとっても好ましい研究環境とされています。

私はこれまでにマスイメージング（MSI）や液体クロマトグラフィー質量分析法（LC-MS/MS）を用いた脂質オミクス、プロテオミクス、メタボロミクス、薬物およびその代謝物のイメージングに関する知識を身につけてきました。現在は、前立腺がんの治療標的の開発に取り組んでいます。また、神経変性疾患の新薬開発およびオミクス解析にも従事しています。博士課程の2年目を終え、共著として5本の論文を発表しました。さらに、第一著者としての論文も1本、まもなく完成・投稿予定です。将来的には自分の知識を生かし、質量分析の研究分野に貢献していきたいと考えています。

私は家族とともに浜松で暮らしています。日本の子どもに関する設備（保健、保育、防犯、交通安全）はとても信頼できます。私は浜松市内のほとんどの地域を訪れました。特に、浜名湖、はままつフラワーパーク、はままつフルーツパーク時之栖での果物狩りが印象的でした。浜松の天候や気候はとても快適です。浜松では「柿」、「三ヶ日みかん」、「うなぎパイ」はとても有名です。日本には自然の美しい場所がたくさんあります。私はこれまでに、富士山、伊豆諸島、東京、京都、大阪、つくば、埼玉、名古屋、三重、富山、金沢、岐阜の白川郷、長野の白馬バレーや上高地、愛媛県の松山や今治、岩城島など、さまざまな場所を訪れました。

私は浜松医科大学国際交流奨学金を受給しています。この奨学金は生活面での手厚い支援となり、そのおかげで私は研究と学業に専念することができています。この奨学金を支給していただいていること、そして博士課程の研究を行う機会をいただいていることに対し、大学関係者の皆さま、寄附者の皆さま、支援者の皆さまに心より感謝申し上げます。



桜の季節に、はままつフラワーパークで



長野にて、バングラデシュの友人たちと夏のイベントを満喫



JAXA 筑波宇宙センターにて

卒業留学生からのお便り

日本医療研究開発機構 (AMED)
ポストドクトラル若手研究者
国立感染症研究所・ウイルス第二部
浜松医科大学 訪問共同研究員
劉 傑, Ph.D.



国立感染症研究所の前で

私の名前は劉傑 (LIUJIE) と申します。中国から参りました。

2018年10月に浜松へ来た日のことは、今でも昨日のここのように鮮明に思い出されます。静かな街並み、清潔な道路、そして青空に浮かぶ綿菓子のような白い雲——すべてが私にとって新鮮で、どこか温かさを感じるものでした。日本語はまだ拙かったものの、漢字が理解できたおかげで、大きな不安は感じませんでした。

臨床医からウイルス学の研究者へ——この転身は決して容易なものではありませんでした。病院では患者と薬を相手にしていた日々から一転し、今ではDNA/RNAの抽出や合成、そしてウイルスが細胞や動物に感染した際に引き起こす反応など、より根本的な生命現象を探る立場へと変わりました。最初は戸惑いや不安もありましたが、浜松医科大学の先生方が基礎から丁寧に指導してくださり、そのおかげでウイルス研究の扉がゆっくりと開かれていきました。

研究が思うように進まず、苦悩することも多くありましたが、先生方や仲間たちと共に困難を乗り越えた瞬間の喜びは、今でも忘れられません。振り返ってみれば、まさにその困難こそが、私自身を成長させてくれた貴重な経験だったのだと実感しています。

卒業後は、大変光栄なことに日本医療研究開発機構 (AMED) の「ポストドクトラル若手研究者」として採用され、国立感染症研究所・ウイルス第二部にて研究を続けています。ここでは、多くの優秀な研究者たちと出会い、その研究成果に深い感銘を受けました。同時に、自分自身もいつか独立した研究者として社会に貢献できるよう、強く志を抱くようになりました。

現在は、浜松医科大学に「訪問共同研究員」として戻る機会をいただき、共同研究を行っております。久しぶりというほどの時間は経っていないものの、再び母校のキャンパスに立ち、先生方と再会できたことに、あらためて感慨深い気持ちを覚えます。

浜松医科大学で得た経験は、私にとってかけがえない財産です。そして、日本の研究環境が持つ「自由さ」「丁寧さ」「チームワークの強さ」は、研究者としての私を今も支え続けてくれています。これからも、謙虚な姿勢を忘れずに、一步一步着実に、自分の研究の道を歩んでいきたいと思えます。

最後に、これまでご指導いただいたすべての先生方、そして共に歩んできた仲間たちに心より感謝申し上げます。今後もしもご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



浜松医科大学附属図書館エントランス前で家族と



国際化推進センター
WEB SITE



浜松医科大学
基金

